

富士時報「滿洲特輯號」刊行に際して

滿洲國建設以來茲に五歳、五色の黄旗燦然として東亞の一角に輝き我國との友好益々緊密に文化日に逼り、之れを陰鬱なりし東三省時代に比すれば眞に隔世の感がある。

惟ふに帝國の生命線たる滿洲幾多尊き我等同胞の犠牲により、新興の基礎漸く鞏固に、不可分なる兩國の提携は相互の繁榮と進展とを確保し、滿洲國は一路其國容の強化整備に邁進し、今や我々は名實共に強大なる隣邦帝國を見出さんとしつゝある。は誠に欣慶に堪へぬ處である。

滿洲國は帝政を實施し、經濟建設の大業其の緒に就くや天然無限の寶庫は漸次開發せられ各種産業相次で興り之が原動力をなす電氣事業の發展は特に目覺しきものがある。即ち電力方面に於ては滿洲電業會社の設立せらるゝあり、通信關係としては電信電話會社の獨立せるあり、又南滿洲鐵道會社も北鐵の買収によりその經營事業を全滿に擴充せらるゝ等、其統制ある經營に依り特に世界に比類なき進歩發達の道程に上らんとして居る。

富士電機及富士通信機兩社は夙に滿洲の文化に就て稽ふる所あり、往年南滿洲鐵道其他の要機納入を以てその開發進運に微力を捧げ來たのであるが、滿洲國の建設以來近代國家として必要なる各般の施設に對する需要の増加に應じて一層の努力を拂ひ、以て同國文化の向上に貢獻し得るを無上の光榮として居る。

「富士時報」は茲に「滿洲特輯號」を刊行して富士兩社の滿洲國關係品に關する記述を一巻に纏め此等納品を通じて新興滿洲國に對する友好の情誼を新たにすると共に、在滿各事業に關係を有せらるる諸彦の爲めに聊か參考資料の一助たらしめんと企圖した所以である。

尙、本號の刊行に當り貴重なる記事を寄せられたる各位の懇篤なる御後援に對し、甚深なる感謝の意を表する次第である。

富士時報編輯部識



*本誌に記載されている会社名および製品名は、それぞれの会社が所有する
商標または登録商標である場合があります。